44 小山宿～新田宿

栃木県小山市

喜沢東 ～ 羽 川

（ 歩行距離 2109m 26分 ）

歩く地図でたどる日光街道

http://nikko-kaido.jp/

JZE00512@nifty.ne.jp

左の小高い丘が喜沢の一里塚

21 喜沢一里塚

日本橋から21里の一里塚。雑木林の中にあり、西側の塚が残っている。塚の上には数本の木が生えている。日光・奥州・甲州道中宿村大概帳によると左右二つの盛り土があるとされ、西の塚には雑木林、東には杉が植えられていたと記されている。案内板なし。

日枝神社

日枝神社入口

coffee time

例幣使街道

日光西街道とも呼ばれる。小山の先の喜沢で街道と分かれ、宇都宮を通らず楡木で例幣使街道と合流する。楡木から今市宿までは例幣使街道と同じ道で日光例幣使街道と呼ばれている。中山道から日光へ向かう道で、倉賀野で中山道と分かれ、今市で日光街道と合流する。今日からの例幣使が通った。

倉賀野宿(群馬県高崎市)～玉村宿(群馬県佐波郡玉村町)～五料(ごりょう)宿(群馬県玉村町五料)～柴宿(群馬県伊勢崎師)～境宿(群馬県伊勢崎市)～木崎宿(群馬県太田市)～太田宿(群馬県太田市)～八木宿(栃木県足利市)～梁田宿(栃木県足利市)～天明宿(栃木県佐野市)～犬伏宿(栃木県佐野市)～富田宿(栃木県栃木市大平町)～栃木宿(栃木県栃木市)～合戦場宿(かっせんば)(栃木県栃木市都賀町)～金崎宿(栃木県上都賀郡西方町)～楡木宿(栃木県鹿沼市)～奈佐原宿(栃木県鹿沼市)～鹿沼宿(栃木県鹿沼市)～文挟宿(ふばさみ)(栃木県日光市)～板橋宿(栃木県日光市)～今市宿(栃木県日光市)

⑤壬生通

「此道より飯塚・壬生・楡木・奈佐原・鹿沼・文鋏・板橋を経て今市に通ず」（日光道中行程記安見絵図）楡木で例幣使街道と一緒になる。さらにこの追分は「追分往還の左に皁莢（さいかち）の古木、右に榎の大木あり。むかし小山城遠囲ありしとき木戸を構へし所なりと云伝ふ」（日光道中略記）今は木は無くなっている。

喜沢の追分から延びる壬生通りは、小山宿（栃木県小山市）～飯塚宿（栃木県小山市）～壬生宿（栃木県下都賀郡壬生町）～楡木宿（栃木県鹿沼市）。楡木宿で日光例幣使街道と合流する。　「日光西街道」とも呼ばれていた。壬生通りは、宇都宮を経由する日光街道よりも距離が短いので多くの人に、大いに利用されていた。現在、喜沢の追分から約650mのところに、壬生通りの一里塚や旧道跡が残っている。

日枝神社のケヤキ

coffee time

十九夜

唯一主婦だけの講である。毎月宿元で伝承の如意輪観音像掛け軸を掲げて念仏を唱和し、その後自慢の手作り漬け物や煮豆などで茶飲み話に花を咲かせる。毎月2月に供養があり庚申塔の傍らの十九夜塔にしめ縄を張り供物を供え念仏を唱える。

このような念仏講も庚申講や山ノ神講と共に近隣の集落に広く伝承されている。昔ながらの数珠繰りが行われているところもある。

③日枝神社

江戸時代には山王といわれた。参道に樹齢400年以上、樹高30数mの大きなケヤキが2本、右に1本ある。神社を中心とした付近一帯は、中世の小山城（祇園城）の北の守りとして支城の役割も果たしていた。社殿裏の土塁の上には明治45年（1912）まで追分にあった大きな男体山碑（道標）がある。

①旧喜沢村

このあたりから旧喜沢村（木沢ともかく）に入る。『宿村大概帳』によれば、村高239石。幕府領で代官北条雄之助の支配にあった。総家数239軒。家並み5町余り、道幅4間だった。

喜沢東交差点から右の細い道へ

喜沢追分

喜沢交差点

④喜沢の追分

壬生通りとの分岐点。左は天明5年（1785）の道標を兼ねた供養塔。中は明治27年（1894）の馬頭観世音碑、右は日清日露日支出徒馬碑。ここには茶屋や立場（たてば）があり、駕籠や馬はここで休息した。将軍日光ご参詣時には警護所となる要衝だった。

coffee time

庚申

庚申とは干支(えと)　即ち、庚（かのえ）申（さる）の日を意味し、この夜に人間の体の中にいる三尸の虫が、寝ている間に体から脱け出して、天帝にその人間の行った悪行を告げ口に行く。天帝は寿命を司る神であるから、悪いことをした人に罰として寿命を縮める。ところが、三尸の虫は、人間が寝ている間にしか体から脱け出ることができないので、庚申日は、徹夜をする、これを庚申待ちという。

薬師堂

②天翁院寮跡の地蔵尊

3階建てのアパートの北側を入っていくと、正面にあるのが薬師堂。その右にあるのが観音堂。石像が4つ並んでいる。右の石像は、かつて喜沢の追分にあったといわれる享保3年（1718）の地蔵尊（道標）。側面には「右へ奥州海道　左へ日光海道」とあり、正徳6年（1716）「海道」の使用を禁止した幕府のおふれが徹底していなかった。左の2つは十九夜塔。